

## はじめに

鹿児島市教育委員会教育長 石踊 政昭

本年度の「こころの言の葉」作品集ができあがりました。皆様のお手元にお届けできることを大変うれしく思います。これは、「鹿児島市の教育を考える市民会議」の提言を受け、平成十五年度から実施されているものです。これまで、「こころの言の葉」コンクール及び作品集には、各方面から大きな反響をいただいております。今年度は記念すべき十周年を迎えました。

本事業には、面と向かつては、気恥ずかしくてなかなか言えないようなことを一枚のはがきに託し、中学生の親と子の交流を図り、お互いの存在について考えを深め合うという趣旨があります。今年も数多くの「言の葉」が寄せられ、その数は過去最高の一万六千百十四点。特に今年は、親の部の応募が前年度のおよそ三倍となり、「こころの言の葉」への関心の高さと、本事業の趣旨が浸透していることをうかがうことができました。

この作品集には、中学生の子どもから親へ、親から中学生の子どもへあてた数十編のメッセージが掲載されています。また、今回は十周年記念として、過去の大賞受賞作品も再掲しています。昨年多かった家族の絆を考えさせられる作品に加え、中学生と親との心のつながりや感謝の思いが多く綴られています。子どもから大人へさしかかる揺れ動く時期の中学生の気持ちや、そんな子どもたちに戸惑いながらも正面から向き合い、包みこもうとする親の様子には、読む者の心が揺さぶられます。御家族皆さんでこの作品集を読み、親や子としての在り方について考える契機としていただければ幸いです。

最後に、素晴らしい「こころの言の葉」を寄せてくださったすべての皆様に心から感謝の意を表し、はじめの言葉とします。

平成二十四年十二月

# 目次

## 「思いをつなぐ」言の葉

―子から親へ―

背番号	4
おばあちゃん	5
口答えとは何ですか？	6
昔は	7
言えない事、言いたい事	8
親子ゲンカをしてみたい	9
父のおさそい	10
これからよろしく	11
あやまりたいこと	12
置き手紙	13

## 「願いをつなぐ」言の葉

―親から子へ―

「あっかんべー」	15
「K・Y」	16
中学生の君	17
空も飛べるはず	18
期待	19
「ありがとうね」	20
愛する拓人へ	21
あなたの力に	22
握手	23
「おかえり」	24

## 「時をつなぐ」言の葉

(十周年記念歴代大賞作品)

ありがと、父さん	26
我が息子へ	27
家族のチカラ	28
ずっとそばに私がいるよ	28
不思議なチカラ	29
出会いに感謝	29
「不器用な父へ」	30
あなたと向き合う	30
願い	31
後悔	31
何のために生まれてきたんだろう	32
ゆっくりゆっくり	32
嘘	33
見送り	33
いつかきつと	34
オムライス	34
母の付せん紙	35
娘へ	35



## 「心をつなぐ」言の葉

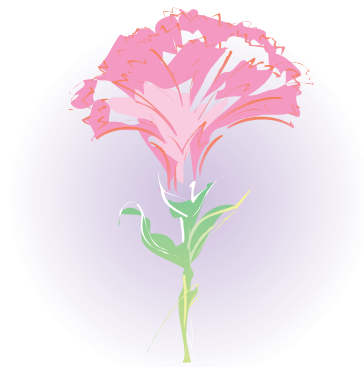
―子から親へ―

本当は	37
今父に伝えたいこと	37
母さんへ	38
大好き	38
最高の母	39
おいしい料理	39
僕が悪かったのに	40
言葉の凶器	40
たくさんの「ありがとう」を	41
一番のヒーロー	41
合言葉	42
一言の大切さ	42
「心をつなぐ」言の葉	44
―親から子へ―	44
「ゆうれい」	44
大器晩成	45
うれしいよ	45
娘へ	45
成長するのは楽しみであり	46
生まれてきてくれてありがとう	46
もう少しだけ	47
心はだれよりも	47
いつの日か	48
涙の向こうには	48
大空に	49
澄んだ目	49

平成二十四年度「こころの言の葉」コンクール入賞者	50
「こころの言の葉」コンクール歴代大賞受賞者及び作品集タイトル	51
「こころの言の葉」コンクール十周年記念ポスター原画コンクール入賞者及び作品	51
審査員講評	52
編集後記	53

# 「思いをつなぐ」言の葉

—子から親へ—



## 背番号

あの日の朝は、今でも忘れません。九番の背番号がきれいに縫い付けてあるユニフォームとその近くにあった小さなメモ。そのメモには、

「せっかく縫ってくれたのにやり直したりしてゴメンね。でも、あなたの気持ちはすごくうれしかったです。」

とたった三行のメッセージが添えられていました。

まるで、昨夜僕が何回も何回もくり返して、一時間かけて少し斜めったヨレヨレの背番号をつけていたことを知っているかのようなメッセージでした。

僕は涙が出ました。よく分からないけど泣きました。けれど、それと同時にやる気と勇気をもらえた気がします。そして、その九番を背負って試合に行くことでした。

あの日言えなかったありがとうを今、伝えます。



# おばあちゃん



おばあちゃん、いつもぼくが口答えしてもやさしく受けとめてくれてありがとう。お母さんが亡くなった時、ぼくは二歳だったので今年をあわせたら十年も世話をしてくれています。感謝の気持ちでいっぱいなのに、すぐ口答えをしてごめんなさい。他にも料理や洗濯、とぼくたちの何から何までしてくれています。お母さんが亡くなったのはとても悲しいことですが、二歳の時は意識がなかったのでおばあちゃんがお母さんのようです。

ぼくがイライラしているときも「どうしたの。」と言ってやさしくしてくれます。八つ当たりしてしまった時も気にせず、学校に行く時「行ってらっしゃい。」と言ってくれます。そんなおばあちゃんにとても感謝しています。これからも口答えするかもしれないけど、やさしくうけとめてください。そして長生きをしてください。

## 口答えとは何ですか？

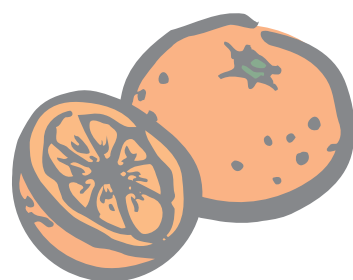
僕は、たまにお父さんやお母さんに怒られます。怒られている時、

お父さんやお母さんはいつも自分の考えで悪いことをした理由を決めつけます。僕なりの理由があり、その理由をお父さんやお母さんに話し、反論しようとする時

「口答えするな。」

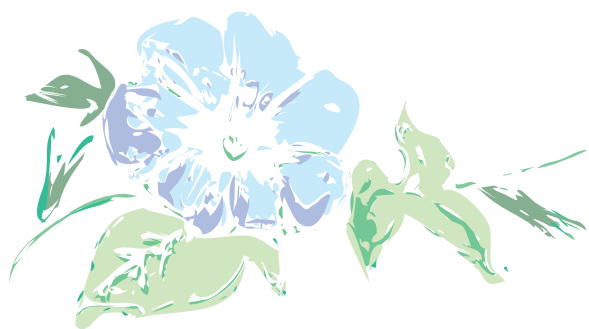
と怒られます。でも、その時僕は思うんです。自分の思いや考えがお父さんたちと違ってから訂正しようとしているのに、それすらも口答えとして受け取られてしまうのかと。

お父さん、お母さんに聞きたいことがあります。口答えとは何ですか。怒られている時には、真実すら口答えになるんですか。



# 昔は

最近よくケンカをする。お母さんは言う。昔はそんな言葉使わなかったのに。昔はケンカなんてなかったのに。昔は、昔はってそんなに今の私は嫌ですか。昔の私の方がよかったですか。お母さんは知らない。私がどの言葉より、「昔は」と言われることがきらいなことを。気付いて私の気持ち。そしてほめて。今の私を。



# 言えない事、言いたい事

私の今の父と私は、血がつながっていません。

私の実の父は、私が小学五年生の時に他界しました。母が、今の父と再婚して数年たった今も、父に私の全てを、さらけ出すことはできません。

二人で話す時も、ついつい他人行儀になってしまいます。

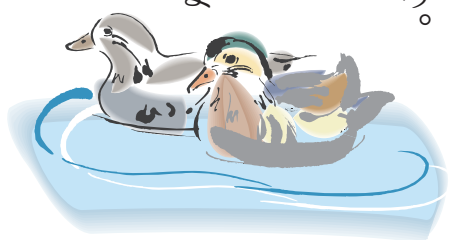
でも、父は、怒る時には怒ります。静かに怒るのではなく、怒鳴りながら怒ります。

それで、父は言うのです。

「怒るという行為は、別に怒鳴らなくてもいい。怒鳴るのには、とても体力を使うから。

でも、父さんが、怒鳴るのはゆきのことを真剣に思ってるからだよ。」

私は、この父の言葉を聞いたとき、父さんと私にあった見えない壁が、なくなっただよ  
うな気がしました。





# 親子ゲンカをしてみたい

私は、親とケンカをしたことがない。でも、兄妹ゲンカはしたことがある。兄には自分の意見が言えるのに、親には言えない。思えば、今まで、母にも父にも私の本音を言ったことがない気がする。冗談みたいにごまかして、親の言う通りにして、だんだん自分で自分が分からなくなる。

思いつきり叫んで泣いて、心に入っている感情のすべてをさらけ出して吐き出したい。いつも、ぎゅうぎゅうに押しこまれていた自分を開放したい。

お母さん、お父さんに私の思いを伝えたい。私、両親が一生懸命働いてくれたことになって大変なこと、知ってる。わがままを言うのが困るのも知ってる。ありがとうっていつも思ってる。だけど、私の本音も聞いてほしい。一度、一緒に話そうよ。ケンカして、私の思いに気づいてほしい。



# 父のおさそい

「今年のお祭りはお父さんと行こうか。」

「い、や。」

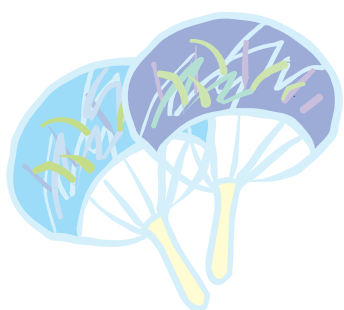
にんまりと笑う父を即座に一蹴するわたし。こんなやりとりは日常茶飯事で、別に珍しいことではない。

断られることを分かっていて誘う父がなんだかわたしには不思議に思える。分かっているくせに聞くときはいつも楽しそうに見えるのだ。もはや断られることを楽しんでいるようにしか見えない。テレビとかで気になったことをたずねても返ってくるのは言葉遊びの冗談。三度目ぐらいでようやくやくまじめな返事が返ってくる。

そんな父だけど。だけど…。

別にきれいじゃないから。

たまには受けてみようかな、父のおさそい。



## これからもよろしく

いつもは言えないけど、この場をかりて言おうかな。先生、いつもありがとう。

自分はちよっとした理由があって親とは暮らさないで、先生たちと暮らしています。

自分は、どうしようもなくて、頭もわるいし、休みの日はテレビか昼ねで、お姉ちゃ

んなのに、全然それっぽくないから、迷惑ばかりかけてるよね。本当ごめんね。しかも

自分が、お母さんとの間で、トラブルにあったとき、「大丈夫。守ってあげるから。」っ

て言われたときは、もうダメだったね。すごっくうれしくて、「ああここに住んでよか

った。」って思った。

先生たちと住んでよかったよ。これからも、よろしく。



## あやまりたいこと

夜食を食べていた。すると母から食べ方について色々注意された。ぼくは、その時、

イラッときて、

「うるせんだよ。もうこんな飯、食わねーし。」

と、はしをテーブルにたたきつけてしまった。本当はとてもおいしかった。今、思うと

何でそんなくらいでおこってしまったんだろう。お母さんごめんなさい。本当は、その後、

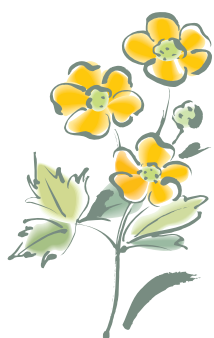
お母さんがいない時にこっそりと、残っていた飯を食べた。ものすごくおいしかった。

本当に本当にごめんなさい。



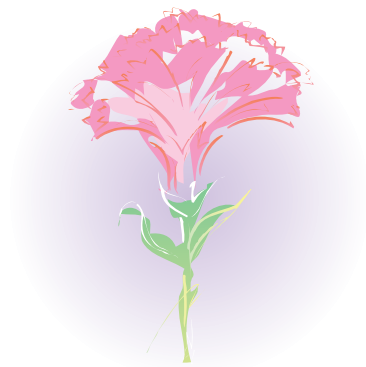
## 置き手紙

一年前に、母親が入院しました。その時、僕は親によく反抗していたので、両親とそんなに仲の良くない時期でした。家では残った僕と父、弟の三人で何とか家事をこなし、数ヶ月後、母は退院しました。母が退院した後も、怒られては反抗し、怒られては反抗のくり返しでした。ある日、いつもよりけんかがひどくなって、母と口をきかなくなりました。そんな時、父と二人でドライブをしていた夜に、母が入院したときに父に書いたという「置き手紙」を見せられました。その時、母が僕に対して想っていたことを初めて見ました。母のあまりの気づかいの言葉に、僕は涙を流しました。涙が止まりませんでした。今でも母と会うと気まずい空気になりますが、そのたび、以前は思い浮かばなかった言葉が浮かびます。ありがとうございます。



# 「願いをつなぐ」言の葉

— 親から子へ —



# 「あっかんべー」

小さい頃から、今日あった事、楽しかった事、腹が立った事、いろんな事を毎日教えてくれてありがとう。笑いながら、怒りながら、時には泣きながら、感情をそのままです。だけど中学に入り変化した。ご機嫌な時は、たくさん話をしてくれるけど、不機嫌才ーラ全開の時は、かなり恐ろしい…。

最近、話しかけなければ腹も立たない、ケンカもしないと、母も黙る作戦実行!!  
が…何度目か、「何で話しないのか?」と怒り出し大騒動。「ケンカになるからよ」と答えたら、さらに大騒動。あ…しまった…。

近寄れば怒るし、離れても怒る。我慢、我慢と毎日思う。

でも我慢ならない日は、あなたが後ろを向いている時に、思いっきり変顔して「あっかんべー」して発散している母です。(笑)

笑いながら、怒りながら、泣きながらいつでもそのままのあなたが大好き。ケンカなしの毎日になる事を信じて今日も「あっかんべー」そして、ハイ!!切り替え!!



## 「K・Y」

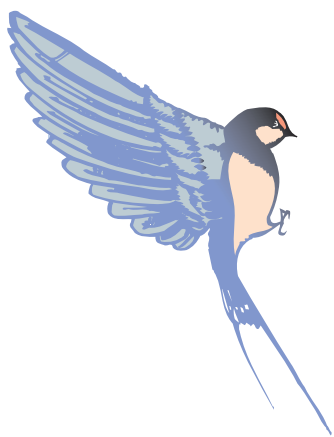
わが家一番の元気印。ぐりぐりした大きな目とよくとおる大きな声。いつでもどこ

でも歌って踊れる中学二年生。元気すぎるあなたに「K・Y」（空気が読めない）と思

った事もあります。でもこの前おばちゃんに聞きました。「お母さんが落ち込んでる時、

わざと笑わしてあげるんだ。私、お母さんの笑った顔が好きなんだ。」

一番空気が読める人だと知りました。ありがとう。





# 中学生の君

いつからだろうか。君との会話が成り立たなくなったのは。

君が怒って登校した日は、

「無事に学校に行ったかしら。」

「友達とはケンカしてないかしら。」と、気を揉みます。

君が話してくれるのがうれしくて、問い返すと、

「うざい。」「うるさい。」「気持ち悪い。」もう、慣れたとはいえ、落ち込みます。

だけど、塾の迎えの車中、

「すみませんでした。」このひと言で、何もかも、ふっ飛びます。

こんな毎日が、懐かしく思える日を信じて。



# 空も飛べるはず

去年の中一の夏は、喧嘩をしていたことしか思い出せないくらいお母さんと衝突していたよね。

そんな時に偶然耳に入ってきた歌詞。

「隠したナイフが似合わない僕をおどけた歌で慰めた」

自分の心を守るために言葉をナイフにしていたあなたを思うと涙が止まりませんでした。

「僕は、だめな人間なんだ。」

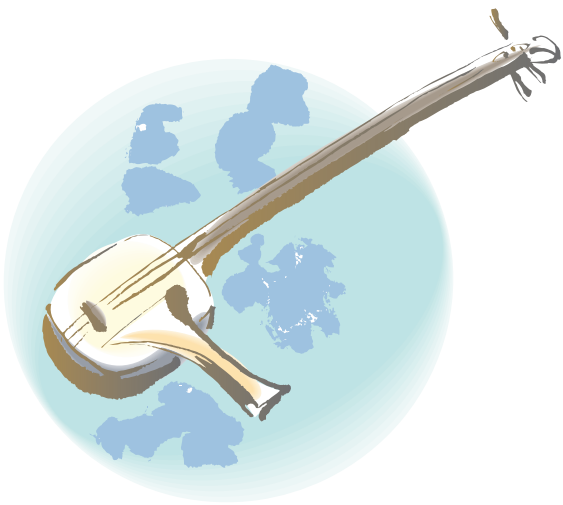
そんな悲しいことを言うから、お母さんも真剣に怒った。

気が遠くなるくらい長い時間話し合ったよね。

何回も何回も。

生まれた時は一緒に居られるだけで幸せだと思っていたのに、あなたが成長する度に欲張りになって・・・プレッシャーをかけていたのかもしれないね。ごめんね。

今年の夏はゆっくりと時間が流れていきます。



# 期待

「期待しないでね。」

「うん、期待してないよ。」

でも、期待でいっぱいです。



# 「ありがとうね」

雨上がりの夕方。息を切らして走って帰ってきたね。

「お母さん！虹出てるよ！みた！？気づいてる？お母さんに知らせようと思って走って帰ってきたんだ！」

ありがとうね。

お母さんもあなたが学校で友達と一緒に見てくれてたらいいなあ・・・って今ちように眺めてたところ。

でもあなたのその小学生みたいなかわいらしい発想とやさしい気持ちがあるものすごくうれしかった!!

虹を見て、お母さんに知らせようって思ってくれたことが無性に。

中学2年になり、最近は、「もういい！」「言われなくてもわかってる！」

「今しようと思ってたんだから！」「お母さんには関係ない！」

などなど日々すごい言葉をたくさん聞くけど、これから先イライラしてしまうことがあったら、きょうのかわいらしいあなたのひとことを思い出すことにしようかな。

きょうのことは、心のポケットに大切にしまっておこう。

まだきれいな虹でてるね。

めいっぱい眺めたら二人でおやつにしようか・・・。



## 愛する拓人へ

あなたの父親が亡くなり一年が過ぎましたね。あなたの心の中は読めないまま、時間だけがたっついていきます。思春期の真っ只中、私はあなたの心の支えになっているのかな？ 明るく友達も沢山でき、新しい学校で沢山の人に支えられて、あなたは元気に生きていますか？ 私は今、あなたの父親役は出来ていないはずです。多分、一生無理でしょう。でも私は、今まで通りただひたすら、ただ時の流れにはむかわずにあなたと共に生きていきたい。これから大人になっていくあなたを、お父さんは天国できっと見守ってくれるはずです。そして、拓人、自分の夢に向かって頑張って生きろと力強く願っているはずです。お姉ちゃんと三人で協力して頑張って生きていこうね。最後に、おとうとおかあの子どもに生まれてきてくれて本当にありがとうございます。母より

# あなたの力に

「お母さん、まだお風呂入らないの」

中三にもなった娘が 毎日のように声をかけてくる。

ハードだった部活動がおわった途端受験の為の塾通い。

ゆっくり話を聞けるのはお風呂の中だけでもね。

楽しいこと うれしいこと 悲しいこと つらいこと

思春期特有の心の変化をことばにはできないようだけど

何かの形で伝えようとしているから

母も必死に読み取ろうとしています。

中学の三年間であなたは少しずつだけど

しっかりと成長しています。

たくさんの方の支えの中で自分の心を探し出してきました。

とても誇らしいよ。

あなたが わたしを必要としてくれるなら

いつでも わたしは あなたの為に力になりたい。

だから「自分」をつかんでね。

ゆっくり ゆっくりで かまわないから…。

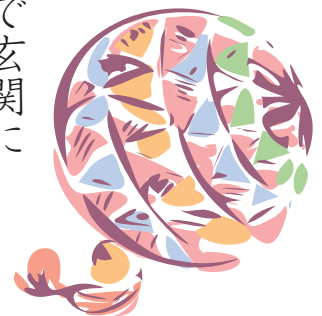


# 握手

「行ってきませす。行くよお。もう行くからねえ。」

ときには、わざと出かけるふりをして玄関ドアを閉め、私を慌てさせる。急いで玄関に向かうと、ドアからのぞくニコニコ顔。そんなおちやめさに、こちらも頬が緩む。置いたままの重たい通学カバンを持ち上げ背負わせる。単に重すぎるカバンを自分で持ち上げ背負うのが面倒で、待っているだけかもしれないけれど、けっこう、この時間うれし  
いんだよなあ。お父さんには「甘いなあ…」と言われていたけどね。そして、「行ってらっしゃい。」と握手。

数年前、それまでだっこマンだったあなたが、だんだん手を離れ、ずっとできるスキンシップを、とって始めた出かける前の握手。機嫌が悪く、追いかけてタッチ、無理矢理手の甲にタッチ、そんな日もあるけれど、とても貴重なスキンシップ。学校に行く前だけでなく、単身赴任先に向かおうとするお父さんにも、あなたがさりげなく手を差し出すのを見るのはとってもとってもうれしい。幸せな気分になるよ。ありがとう。



# 「おかえり」

小学生の頃からずっと鍵っ子のあなた。

弟が熱を出し、私も早退した日、弟の看病をしながら一緒に、ウトウトしていました。あなたは帰ってきて、ランドセルもおろさず、すぐに寝室にいくと、

「いる時くらい『おかえり』って言ってよね。」

と…。ウトウトしていた私は、一瞬で目が覚めました。

私が仕事から帰ると先に帰ってきているあなたは、いつでも「おかえり」と迎えてくれていました。私は「ただいま」と帰れば、「おかえり」と迎えてくれることは当然のことでした。

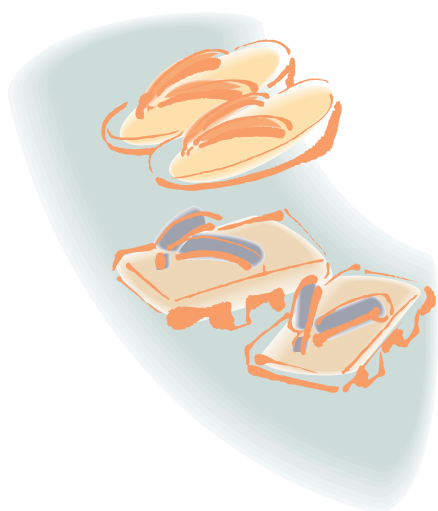
でも、あなたは、いつも誰もいない部屋に「ただいま」と帰ってきていたのでしよう。

「おかえり」と、返事がないと分かっているも…。

中学生になった今、私よりも帰りが早いことはなくなりました。

今日も楽しく過ごせましたか。

これからは、私が「おかえりー」と、必ず迎えます。





# 「時をつなぐ」言の葉

(十周年記念歴代大賞作品)



# ありがとう、父さん

父さんいつもありがとね。いつも父さんには嫌なことばかり言ったり、嫌な行動ばかりしてごめんね。父さんは私のために、朝から晩まで毎日必死に働いているもんね。でも父さんには、ちょっとした障害があるから、トラックとかの免許を取りたくても、ほんの一部しか免許を取ることができないし、「ここで働きたい」と思っても簡単には働けない、働く期限が限られ、何ヶ月かしたら別の仕事を見つけないといけないときもある。こんなことが続くけど父さんは一言も弱音を吐かない。

あのね父さん、わたしが我慢すればいいんだったらどんな事でも我慢するよ。寂しくても我慢するから、絶対に「ごめんね」なんて言わないで。その言葉を聞いたら、心が折れそうになるから、涙が止まらなくなるから、お願いだから言わないで。

普段恥ずかしくて言えないけど、いつも心の中で感謝しているよ。本当にありがとう。これから、もっともって手がかかるけどよろしくね。大人になったら、私の奢りで何か美味しいもの食べに行こうね。それまで待っててね。

# 我が息子へ

近頃、何かにつけて衝突する君と・・・

「うざい」「うざい」を連発する君・・・

それしか言うことはないのか。

先日も取っ組み合いの喧嘩をした。

つかまれて赤くなった腕より、心のほうが痛かった・・・

私の育て方が間違っていたのか。

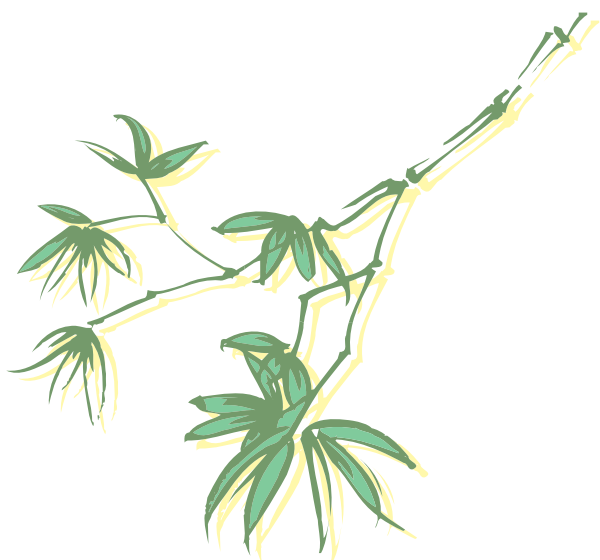
それとも、これも成長の過程なのか。

親に「うざい」は言わせない。

これからも、全身全霊でぶつかっていく！

かかってこい！

我が息子よ！



## 家族のチカラ……

「ありがとう！」

父さん、母さん。ずっとこの言葉が胸の中にひそんでいたよ。言いたかった、伝えたかった。けど、恥ずかしくて言い出せなかった。

あの時だってそう。もう二年も前になるかなあ。私が中学受験した時のこと覚えてる？問題集を買って解いた。必死になって。でも解けなくて、父さんに聞いた。父さんの説明が長すぎて私怒ったよね。

でも、父さんは懸命に教えてくれた。嬉しかった。私、素直じゃないから「ありがとう」って言えなかったよ。あと、母さんも受験に備えていろいろと準備してくれたよね。それにたくさんお金も使った。私、しっかりと勉強しなかった。

だから落ちた。それなのに一言も責めなかった。それどころか「よくがんばった」って言ってくれた。本当に感謝している。あと、すごく後悔してる。本当にごめんなさい。

でも、このことがあって、たくさんいろんなこと学んだよ。だから次は絶対がんばる。約束ね。

それでは最後に一言。「私は今、父さんと母さんにごくいろいろな面で感謝してる。本当に本当にありがとうございます。そしてこれからよろしくお願いします。」

## ずっとそばに私がいるよ

今、心が傷つき、悩み苦しんでいるあなた。そんなあなたに私は何をしてあげられるのでしょうか。学校から帰ってくるなり、机につぶして泣いているあなたを見て、「何がそんなに辛いのか。何を苦しんでいるのか。その苦しみを私に分けてほしい。」と思う。

時々、にらみつけるような目で私を見、「私の気持ちなんか少しもわかっていない。」と怒りをぶちまける時、何があなたをそこまで追い込んだのかと思うと悲しみでいっぱいになる。

何という言葉をかけたらあなたの気持ちが変わるのか。どういうふうに接したら、あなたの心が安らぐのか。私にはわからない。でも、お母さんはただあなたに伝えたい。

「私がいるよ。ずっとそばに私がいるよ」と。

いつかは巣立ってしまうあなただけけれど、今はまだ優しくあなたを包んであげたい。抱きしめてあげたい。私より大きくなったあなたを前にしても、私にとってあなたは十五年前の生まれたての赤ちゃんだった時のあなたと少しも変わらないのだから。

## 不思議な力

お母さん、

悲しくて頭を上げられない日もあった。

苦しくて息もできない日もあった。

辛くって言葉にならない日もあった。

あの日、お母さんが私を強く抱きしめて、たった一言、

「いっしょに頑張ろう」そう言った。

そう言った声小さく震えてた。

私の頬にお母さんの涙が流れて、私の涙とひとつになった。

そのときから不思議な力が湧いてきて、

少し勇気が出てきたのかな。

それから私、少し強くなったのかな。

いつも優しく微笑んでやさしく頭を撫でて、誉めてくれ、いつもいっしょに頑張ってきたんだよね。

お母さんいつも心配かけてごめんさい。

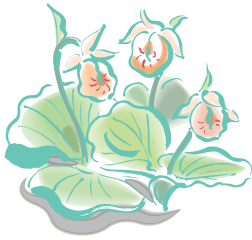
私お母さんの子どもで幸せだと思っている。

憎まれ口を言うときもあるけれど、

口答えをするときもあるけれど、

心の中ではいつも思ってる。

「ありがとう」って。



## 出合いに感謝

素直になれない親、素直になれない子。

本当はとでも心配で一番に子どものことを思っているのに、つい目先のことはばかりに気をとられている。

黙ってほっとけない：

しかってしまったあとには後悔ばかり：

子供を信用しているのに出てくる言葉は反対のことばかり：

親って難しい：

「勝手にしなさい！」と言って勝手にされても困るし、

「もう知らない！」と言って、本当は何でも知りたいし、

親にとって子どもってずーっとずーっと大切にしたい存在。

大好きで大好きでしようがない。

親子で出会えたことに感謝しているんだよ。



## 「不器用な父へ…」

私がつらくてどうしようもない時になぜ声をかけてはくれないの。

私が困っている時に、どうして優しくしてくれないの。私が死にたくて仕方がなかった時にどうして悲しそうな顔で見るの。

私が落ち込んでいる時にどうしてわざと明るく話しかけてくるの。

私の成績が落ちても、どうして「次、頑張れよ」というの。

「ねえどうして、なんで、私には全然分からないよ。」と去年の夏まで思ってた。

でも、去年の夏、私が本当に死にたいと思いながら毎日泣いていたとき、

お父さんが肩に置いた手はとても温かくて、大きくて、でも小さきぎみに震えていたね。

そのとき私はようやく全て分かったよ。

お父さんは不器用だから、思っていることを素直に態度に表すことはできないけど、いつも私のことを考えてくれてるんだね。

ごめんね、いろいろと迷惑かけて。でももう大丈夫。私は元氣になったから。

今までありがとう。私はそんな不器用で優しいお父さんが大好きだよ。

## あなたと向き合う

あなたがうれしい時、一緒に喜びたい。

あなたが楽しいとき、一緒に笑いたい。

あなたが苦しいとき、一緒に考えたい。

あなたが辛いとき、一緒に乗り越えたい。

悩んでいるのに気付いてやれなかった。

あれだけサインを出していたのに助けてやれなかった。

あなたに強くなつてほしかったから、正しく生きて

ほしかったから、きつく言い過ぎた。

その言葉があなたを深く傷つけてしまった。

あなたの心の言葉を聞いてやれなかった。

自分を傷つけるのはもうやめて、ひとりで悩まないで。

これから母は変わりたいと思う。

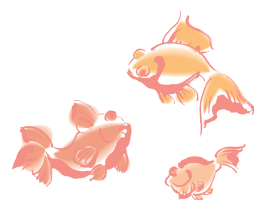
時間がかかるかもしれない。

また、とんでもなくあなたを叱るかもしれない。

でも、ゆっくりゆっくりあなたと話をしたい。

あなたと向きあっていきたい。

ありのままのあなたを受け入れたい。



## 願い

お母さんは、ぼくにいろんな事を求めすぎてる。

お母さんは、いつもぼくを急かす。

ぼくはいつもがんばっている。そして急いでいる。

でもね、お母さんの言うとおりににはできないんだ。

完璧にはできないんだ。

だって、中学生だよ。大人とは違うんだよ。

だからお願いがあるの。

ぼくに求めすぎないで。



## 後悔

「あなたには、パパもママもがっかりした。」

ひどい言葉だよ。ごめんね、そんなこと言って。あなたを傷つけるつもりはなかった。ただ、ただママは焦っていた。やせ細っていく娘の前に焦ってた。何か少しでも、一口でも食べて欲しくて。

どの本を読んでも心のストレス、特に母親との関係が原因と書いてある。涙が出た。だって、一生懸命育ててきたつもりだったから。いっぱい泣いて、いっぱい後悔した。ごめんね。あなたがテストで九十五点をとっても、なぜあと五点がとれないのと責めた。パパとママが仕事でいない時は、当たり前のように妹たちの面倒を頼んだ。しっかり者のあなたは学校でも皆から頼られた。そして忙しい日々。疲れ切っていたあなたを抱きしめてあげればよかった。手を握ってあげればよかった。ごめんね。絶対治してあげるからね。



## 何のために生まれてきたんだろう

何のために生まれてきたんだろう。

いじめられる度にそう思う。

何のために生まれてきたんだろう。

失敗する度にそう思う。

落ち込む僕におとうさんがその答えを教えてくれた。

「いいところもあれば悪いところもある。それが人間だ。」

間だ。

君はお父さんとお母さんの間で生まれたんだ。だから、

君はみんなのために生まれたんだよ。」

その答えを知った僕は思った。

「世界で一人しかいない僕なんだ。みんなのためにもがんばって生きよう。」

この気持ちができたのもお父さんのおかげです。

ありがとうございます、お父さん。



## ゆっくりゆっくり

君が母ちゃんの誕生日に贈ってくれたローズピンのクの一輪のバラ。はにかみながら

「お母さん、これ、誕生日おめでとう。」

と、手渡してくれた。花びんに差して、朽ちていくのが口惜しく、もったいなくて、ドライフラワーにして、大事に飾っておくね。

人よりゆっくりゆっくり歩んでいる君に、母ちゃんはしばしば般若と化し、地団駄踏んで怒るけど、君はいつも一枚上手。母ちゃんのヒステリーをケロリと許してくれる。

君を叩いた掌が、怒りと後悔を薄めるように、じいーんとしびれ、涙がささくれだった心を洗い流す。人として、何が一番大切なのかを、先入観や思い込みで凝り固まった眼のウロコを、一枚一枚丁寧にはがすように、君に育てられていているよ。君と共に歩んで行くよ。ゆっくりゆっくり、心に寄り添いながら。



## 嘘

僕はお母さんに嘘をついた。お母さんは、それを信じて、励ましてくれた。

僕は心がキューツとなったけど、嘘をつき続けた。そして、嘘がばれた。

お母さんは、泣きながら僕のほっぺたをぶった。痛かったけどがまんした。

それから長い間ガミガミとしかられた。僕はうざいと思った。

お母さんは「なぜこんなに怒るかわかる？」と聞いてきた。

僕は「腹が立つから」と答えた。

そしたらお母さんは「あなたのことが大事だから。平気で嘘をつける人間に、なってほしくないから」と言った。

僕は涙が出た。

お母さん、ゴメンなさい。もう嘘はつきません。

## 見送り

「行ってくる。」

かばんを背負って一回、靴をはき終えて一回、玄関を出て一回と。それから、駐車場の角で振り返り、手を高く上げる仕草。そして、見えなくなる。朝は、こうやって学校へ出かけていく息子を見送るのが日課だ。

時には、振り返らず。時には、二回も振り返ったりする。その姿を見ていると、私に伝わってくるものがある。楽しいこと、辛いこと、悲しいことがあるのだろう。

こちらが見送っていると思っていたが、逆に、振り返ってくれているんだ。私のほうが、励まされて元気にさせてもらっていると思える時もある。

言葉には表さなくても伝わってくるよ、こころの言の葉。

「今日も元気で、行っておいで。」



## いつかきつと

私の空は真っ黒だ。昔は、夏の空のようなきれいな青空だったかもしれない。でも今は、真っ黒だ。いつも、お母さんという暖かく優しい太陽が私を照らしてくれるのに、私は分厚い雲で隠してしまう。

お母さんがせっかく注意してくれたのに、頭の中では「うざい」と思ってしまう。

本当は「うざい」じゃなくて「ありがとう」なのに。最近はいつとも以上に照らしてくれることが多くなってきた。照らされれば照らされるほど黒い雨雲で照らしてくれる太陽を隠す。

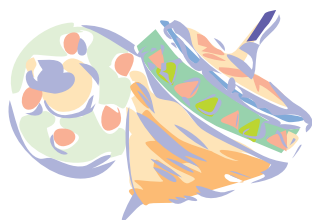
でも、いつかきつと照らされたら照らされた分だけ青い空が広がっていくように、ちゃんと「ありがとう!!」って言える日が来ると思うんだ。

だから、お母さん、それまでこんな私だけど根気強く照らしてください。

## オムライス

「お母さん、夕べはごめんね。」  
なぜ、その時言えないのかな？

最近あなたとぶつかる、ものすごい態度と不機嫌な言葉に反撃され、お母さんの心はノックアウトされてしまいます。テレビで誰かが、反抗期は、「成長ホルモンのせい」と笑っていたけれど、笑えません。お母さんができた唯一の反撃は、翌日のオムライスのケチャップで「べー」と書くことでした。でも、「お母さん、夕べはごめんね。」が、あなたの本当の姿だとちゃんと知っているから、お母さんも「成長ホルモンのやつめ」といって笑うように努力します。



## 母の付せん紙

「今日の天気は？ 傘持った？」

「ハンカチ、ティッシュを確認」

家中に貼られている母が書いた付せん紙

わかっていないことを紙にまで書かれると余計に腹がたつ。母は全く私を信用していないのか。おかげでも、母と言いつつ合意になることもしばしば。

でも、時にはあの付せん紙のおかげで、忘れ物せずすんだり「よかった、助けられた。」と思えたりすることもある。

そう考えると、あの付せん紙は、いつも忙しい母の私へのエールなのかもしれない。私はそっと心の中でつぶやく「ありがとう」。

ただ、付せん紙のおかげで助かったということは、母には内緒にしておこう。だって素直に伝えたらきっと明日の朝には、また新しい付せん紙が増えていそうだから。



## 娘へ

あなたは覚えていますか？ ドアを破ったこと、鏡を投げつけて割ったこと、お母さんと取っ組み合いの喧嘩をしたこと、お母さんが泣いていたこと。

あれから一年、あなたはだいぶ大人になりましたね。お母さんも大人になりましたよ。思春期のあなたに、お母さんは悩みました。あなたの反抗に、お母さんは命がけだったよ。

お母さんの思いが通じなくなった時、あなたはお母さんとは違う一人の人であることを思い知らされました。そのことを認めることがお母さんには必要だったのですね。ごめんなさいね。

それからあまり口うるさく言わないようにしました。あなたにはあなたのペースがあるのだと自分に言い聞かせ、じっと見守るようにしました。毎日忍耐と努力が必要でした。

あれから一年、少しずつあなたの笑顔が見られるようになりました。荷物をそっと持ってくれたり、椅子をそっと差し出してくれたり、人ごみの中で振り向き気遣ってくれたり……、そんなあなたのさりげない優しさを感じる今日この頃です。

ありがとう。お母さんはとてもうれしいよ。あなたはまだまだ爆発する時があるけれど、お母さんはだいたい冷静でいられるようになったよ。こうして大人になっていくあなたをお母さんはこれからもずっと見守っているよ。

# 「心をつなぐ」言の葉

—子から親へ—



## 本当は…

お母さん、本当は中体連、見に来て欲しかったです。結局、三年間で一回も私がテニスしてるの見にきませんでしたね。「試合、見にこないでいいから。」っていつも言ってたけど、「こないで」とは言っていないから、来て良かったのに。最後の試合は見に来て欲しかったのに。恥ずかしくて言えなかった。実は、その後もずっと悩んで、「本当に来ないのかなあ。」って友達に相談してました。まさかその子の親に「どうしよう。うちの子こないでいいって言ってるし…。」と相談してたとは。意地っぱりだなあ。お互いに。

結局二回戦敗退で終わって、ペアの子とずっと号泣してました。本当に良いコンビだったんだよ。嬉しさもくやしさも全部一緒に感じて、最強じゃなかったけど、最高だったと思う。

だからやっぱり最後、見に来て欲しかったな。

## 今父に伝えたいこと

父さんが倒れてから、もうすぐ六年がたちますね。あなたが倒れてすぐのころは、今までと違うあなたにとまどってばかりでした。あまり動かなくなっってしまった右半身に、うまく話せない言葉。今はもう慣れてきたけど、正直、あなたと普通に会話できないのはさみしいです。名前を呼んでももらえないのは悲しいです。ですが、それ以上に昔はしかめ面ばかりだったあなたが楽しそうに笑っているのが、うれしくて仕方ありません。これからも大変なことは多いと思います。会話がうまくいかず、すれ違うこともあるでしょう。だけど、今まで家族全員支え合ってきたように、これから協力してがんばりましょう。いつでも、いくつになっても、私は父さんの味方です。

## 母さんへ

「またダメされた…。」

今日もまた母さんにダメされた。人がぐっすりねむっていると

「もう七時二十分だよ。学校におくれるよ。」

と、デカイ声でおこされる。ビックリして時計に目をやると、「六時三十分。」ありえない。はっきり言って、もうこれは一種のドッキリだ。本当にめいわくだ。本当にやめてほしい。なぜ毎回うそをつくのか聞いてみた。

「えっ、うそ。なにそれ、いずれ七時二十分はおとずれる。」

名言でも何でもない。でも、言葉では言えないけど、いつも思っているよ

「今日も、おくれずにすんだ。ありがとう。」

## 大好き

私が何をしていたって、口を出して怒ってくるお母さん。

私は、絶対にお母さんと似たくないと思ってたしお母さんは私のことが嫌いなのかなって思ってた。

だから私もお母さんが嫌いだった。

でもね、ある日お母さんの引き出を開けた。

そしたら、小さいころから今まで、私たち兄弟があげた手紙がギッシリ入ってた。

やっぱりお母さんと私は似てるよ。

だって私もお母さんから、今までもらった手紙、大切にとってるよ。

この時私の心は、嫌いから大好きに変わったよ。

私もお母さんみたいな母親になれるかな。

お母さん。

大好きだよ。



## 最高の母

私の母はいつも優しい。私は母と歩いているといつも「姉妹みたいだね」って言われる。そこまでかな、と思いつながら、ちよっとうれしい。なぜなら、私の母は最高の母だから。

私は、中学生で現在思春期である。私には、悩みがあった。受験生なのに勉強がままならない日々が続く、自分の将来について悩んでいた。私には夢がある。とても大きな夢だ。それは、ドイツに留学してドクターへりについて学ぶという夢だ。私は正直、叶うわけないだろうなと諦めそうになった時、母が私にこんな言葉をかけた。

「あんたの人生は、あんた自身で決めなさいよ。どんなに大きな夢でも、諦めなければ絶対、絶対叶うんだからね。」  
私はその時、絶対叶えようと思った。そして、優しく強くて明るい母がもっと大好きになった。

## おいしい料理

私は母の作る料理が大好きだ。特に豆腐バーグが一番好き。やわらかく、ちよっとうど良い味のソースがとてもおいしい。元気の出る味だ。母は私が落ちこんでいる時も、優しく前向きな言葉をかけて、私を元気にしてくれる。そんな優しさが料理に表れていると思った。母の料理は世界一おいしい。一回の食事は人生で最初で最後の料理。味も形もちがう。だから一回の食事を母の優しさを感じながら味わって食べようと思う。私も母のように、人に元気をあたえられるような優しい人になろうと思う。

## 僕が悪かったのに

私は先日母と大ゲンカをしました。あれは、完全に僕が悪かったのに、母に謝りもせずに、私は自分の部屋に逃げ込みました。

何分か経ち、母が二階の私の部屋の前まできました。中に入ってきて、また怒られるのかと思ったら、母は中に入ってくず、ドアの前でずっと立っていました。あまりに何もしてこなかったもので、外に出ようとする、母は小さな声で「ごめんね。」と言いました。そして、そのまま下に降りて行きました。

本当は、私が全て悪いのに、私から謝ればよかったのに。結局謝ることはできませんでした。ごめんなさい、母さん。

## 言葉の凶器

私はいつも何か言われると、すぐに反抗。そんな反抗的な私。私はその行動・言葉で親を傷つけているとは思っていませんでした。

夏祭りの帰宅後、帰る時間がとてもおそかった。もちろん怒られた。それは当たり前前だと思った。

でも反抗的な私は「意味わからない」「ふざけんな」等の言葉のナイフが、親の心に突きささる。口が、言いたいほうだい。自分自身も止められない。

その後は、気軽に話してあげようって残るもの。次からは気をつけようって思うのに口から出てくる心に悪い凶器。危なくて、傷つく凶器はもう出ません。反抗的で、変な私をどうかまだ、好きでいてください。



## たくさんの「ありがとう」を

私は、今年の冬に父を亡くしました。突然の死で本当に信じられませんでした。毎日のように喧嘩をして、迷惑ばかりかけていました。

私が習っている太鼓の演奏のとき、いつも見に来てくれたり、ものづくりの全国大会にも一緒に来てくれたり。たくさんのごことをしてもらったのに、「ありがとう」という感謝のことばも、ろくに言えませんでした。後悔ばかりが残っています。

でも、私は直接言えない分、毎日感謝をしています。私を育ててくれたこと、応援してくれたことなど、たくさんさんの「ありがとう」を送っています。

私の自慢の父へ。今まで本当に ありがとう。

## 一番のヒーロー

お母さん。いつも私に「後悔する人生は、楽しくないよ。」と言うよね。分かってるよ。そんな人生は嫌だって、次から頑張るよって。でも今の私は、自分のこれからが、不安でいっぱいだから、「分かってるって」と強く言ってしまう。ごめんね。お母さんのこと嫌いじゃないからね。

お母さんにとっては三人目の受験生。私にとっては一度きりの高校受験。お母さんは、私のために言ってくれているんだよね。ありがとう。

私は、この文章には書ききれないほど、お母さんのことが大好きです。

これからも私にとって、一番のヒーローでいてください。

## 合い言葉

「見て見て、トマトが真っ赤だよ。」  
 「ほらほら、あじさいがきれいに咲いたよ。」  
 私の母はすごく小さな出来事でも私をすぐに呼ぶ。  
 「また？めんどいなあ」正直な心はこう言っている。  
 でも心のどこか、せまいかたすみでは、なあに？どうしたの？と母から呼ばれるのを毎回楽しみにしている私がいる。  
 つらい時、かなしい時、悔しい時そんな時でも、私は母の声に耳をかたむけている。「早く呼ばれないかな？」「早く呼んでくれないかな？」そんな思いがある。母とケンカした次の日だって、母は私を呼んでくれる。  
 こうして母と二人ですごしている時は、自然と笑顔がこぼれる。だからこの、「見て見て」「ほらほら」は、私と母にとっての「合い言葉」。そして母から私への愛情、私から母への感謝である。

## 一言の大切さ

「忘れ物はない？」  
 いつもかけてくれるこの言葉。朝は時間がないので急いでいるから、  
 「ないから。」  
 と素っ気なく返しちゃうけど、本当はすごくありがたい。お母さんがこの一言を言ってくれるから忘れ物を少なくすることが出来ている。でも、  
 「ありがとう。」  
 の一言さえ言うことが出来ない。だけど、いつもありがとうって思っているから、今はもどかしくて言えないけど、必ず言うから、今は許してね。これからも、毎日言っただね。  
 「忘れ物ない？」って…。

# 「心をつなぐ」言の葉

— 親から子へ —



## “ゆうれい”

「母さん、死んでも『ゆうれい』でもい  
いから会いに来てね。」

『ゆうれい』を怖がるあなたが言ってく

れた言葉です。

なんだかともうれしくて忘れられない

言葉です。



## 大器晩成

思わしくないテストの結果に、  
「大器は、晩成する。」

と、豪語したあなた。裏付けとなる日々  
の努力はあるのかな？と、少々呆れる。

両手を広げて、行く手を遮った男の子  
を勢いよく突き飛ばした幼稚園の時。母  
にはない行動は、正直、羨ましかったか  
な。

周りとの妥協を見い出せず、不登校を  
決行していた中二。母の心は折れそうだ  
った。でも、

「障害のある人との架け橋になりたい。」  
とも言ったね。自分と葛藤しているんだ  
と待つことにしたんだ。

妊娠十一週目。大量出血で諦めた命は、  
エコーの中、元気に「生」を主張してい  
た。

あの時からずっと、そして、これからも、  
あなたの生きる力を信じているよ。

## うれしいよ

僚ちゃん。

お母さんの背を追い越してくれて

うれしいよ。

時々、生意気なことを言うようになって

うれしいよ。

ラーメンをひとりで作れるようになって

うれしいよ。

そして、疲れた顔をしていると、そっと

もんでくれる手の力強さとやさしい心

に、胸がいっぱいになるよ。

ありがとう。

## 娘へ

「お母さくらん」「お母さくらん」「お母さくらん」  
今日もあなたの明るい声が聞こえます。

こんな日が来るなんて思ってもいませんでした。  
反抗するあなたに悩み、泣いて過ごしたあの頃。  
あなたによかれと思ってすることが、あなたに  
は気に入らなくて暴れていましたね。

「うざい」「だまれ」「くそばあ」の言葉に、  
お母さんも大人げなくついかつとなつて  
いつも喧嘩でした。お互いあざだらけでしたね。  
あなたの爪の跡が絶えなくて、  
ほんと辛かったです。

でも本当に辛かったのはあなたです。  
あなたはあなたであること、お母さんが受け  
入れることができなかったから。  
そのことに気づかされてからは努力が必要でし  
た。じっと見守ることがどんなに難しいことか  
を知りました。

あれから二年、あなたの反抗はいつのまにか落  
ち着きましたね。  
いつもお母さんの歩調に合わせて歩いてくれる  
あなたの優しさがとても嬉しいです。  
あなたの笑顔が見られるようになって本当に幸  
せです。ありがとう。

あと何年こうして一緒に過ごせるのかな。  
あなたの歩む道、お母さんはこれからずっと  
見守っていますね。

## 成長するのは楽しみであり

「大学は県外に行く」と言う息子

「お母さんも暇だからついて行く」と言う

母

「絶対にダメ」という息子

「教師になりたい」と言う息子

「授業参観に先生の母として参加する」

と言う母

「絶対に絶対にダメ」と言う息子

母は秘かに夢を叶えようと思っている。

いつの日か…。

## 生まれてきてくれてありがとう

隆、中学校生活を楽しんでいきますか。弓道部に入ってます、たくましくなってますでしたね。

隆、あなたがおなかの中にいると分かって、本当に嬉しかったの。でも、その時、夢だった仕事に就いて、続けようか、やめようか迷いました。お医者さんから「安静にするように。」と言われたから…。おなかの中で元気にいるか不安でたまらなかつたよ。だから、決めた。「この子のお母さんになりたい。」って、はっきりと。

その後も入院もしたけれど、なんとか十か月目に入りました。早く会いたくてたまらなかつたなあ。

陣痛が始まって、二日目の夕方、お父さんとそっくりな元気な男の子に、やっと会えました。その日は五月九日、日曜日、「母の日」でした。

その日から、今日まで、本当に大きくなつたね。空のように大きな優しさをもっている隆は、自慢の息子です。

勉強とスポーツの両立は大変だけど、応援しています。

隆、生まれてきてくれてありがとう。とても幸せです。

母より

## もう少しだけ

「5時、起こして」

メモを残して寝る君を

もう少しだけ

起こさずいよう。



## 心はだれよりも

病気を持って生まれて、何度も入退院、  
投薬、注射、手術と痛い思いをたくさん  
させた。

今、中学生になって、いろんなことが理  
解できるようになり、がまんもいっぱい  
させて、私はいつあなたから「なぜ、元  
気に生んでくれなかったの？」と言われ  
るかど覚悟はしているけど、あなたはい  
つも「ありがとう」と言う。心はだれよ  
りも元気に育ってくれていることに、私  
から「ありがとう」。



## いつの日か

男の子の君との距離ができるのがこわくて  
言いづらいことをお互い書こうね、とは  
じめた二年前からのノート。

ほとんどが「怒りすぎてごめんね。」「頼  
りすぎてごめんね。」の私の言葉。

君からは「怒らせてごめんね。」「いつも  
ありがとう。」の優しい言葉。

イライラしていたはずなのに魔法の言葉  
で「やられた!!」と思う私。

この間もしてやられた!!

「ぼくのために叱ってくれてありがとう。」  
どこで習った?こんな言葉。大人になっ  
ていく君に涙。

いつの日か、二人で読もうね。このノ  
トを。

## 涙の向こうには

あなたが生まれたとき、お母さんは涙が  
出ました。涙の向こうには、あなたの笑  
顔。

あなたが一人で立ったとき、お母さんは  
涙が出ました。涙の向こうには、誇らし  
げなあなたの笑顔。

あなたが病気で手術を受けたとき、お母  
さんは涙が出ました。涙の向こうには落  
ち着いた笑顔。

いつも、母の涙は、あなたの笑顔で消え  
ていきました。

すぐに泣いてしまう母だけど、これから  
も笑顔待っています!



## 大空に

ソラちゃん、最近どうですか？いろいろ悩んでいませんか？

自分の気持ちをどうしてよいかわからず、ひとりで泣いたりしていませんか？きつとそんな年頃になったと思うから…。

お母さんはあなたと同じ年齢（とし）の頃、何でも自分ひとりで解決しようとしていました。今思うとそれがいけなかったかなと思います。思い切って、何でもまわりの人たちに相談したら、いろんな解決の道があったんだらうかな。

最近、家族がバラバラになってきている。そう思っていますか？きつといろんなことを乗り越えて、ほんとうの家族になっていくんだとお母さんは思っています。

あなたがまだベビーカーに乗っていた頃、空を指さして「お絵かきしてる」とさげんだときに、できた歌です。

「大空にお絵かきしてるという愛娘（おすめ）、ひこうき雲の大文字のV（ヴイ）」  
今でも空が大好きなお母さんの大切なソラちゃんへ。

## 澄んだ目

あなたが小学校に入ったばかりの頃、いつも遊んでいたお友達の名を聞かなくなって、けんかでもしたのかと聞いた私に「〇〇君のお母さんがぼくと遊んだらダメっていったから。」と返事。うっと息をのんだ私は思わずあなたに「それはすごく悲しかったね。」と言ってしまった。でも、あなたの返事は私の想像とはかけ離れていましたね。

「どうして？どうしてぼくが悲しいの？ぼくと遊べない〇〇君の方がずっと悲しいのに。」  
母はうっと二度めの息をのみ、何とも言えない嬉しさと涙がこみあげてくるのを感じました。あなたは言葉の表現や理解が難しく療育に通っていて、おとなしくおだやかなあなたにお友だちが出来るか、いじめにあうのではありませんかと心配や不安でいっぱいでしたから。だからあなたのその考え方はとっても素敵でした。母が思う以上にあなたはたくましい。その後何度となくいじめにもあい、でもあなたはあなたらしい考え方で乗り越えていく。母は、何が正しいのか、何を大事にしたらいいいのかを一緒に考えて話すだけ。

あなたは、今でも他のお友達と違う心配をかかえたままだけど、あなたの目は澄んでいて、母の目をきちんとまっすぐに見つめるから母はあなたが信じています。何があってもあなたの目が濁ることのない様、あなたのその心を大事に守ります。なぜならあなたの澄んだ目は母の元気の源ですから。

## 平成 24 年度 「こころの言の葉」コンクール入賞者

応募数：中学生 14,982 点 親 1,132 点 総数 16,114 点

賞	中学生の部	親の部
大 賞	中間 蒼	河野 理奈
準大賞	浅井 香穂	富松 友美
準大賞	森山 嵩生	廣森 玲子
優秀賞	濱口 早輝	西方 真由美
優秀賞	森田 真由	大島 早苗
優秀賞	松崎 響平	渡海谷 利恵
優秀賞	山下 紗里菜	堂園 浩一朗
優秀賞	境田 遊	弥榮 可子
優秀賞	平 友美	原口 栄子
優秀賞	黒木 隆道	
入 選	古山 夏那	徳永 明美
入 選	森 由理絵	末吉 慶子
入 選	水元 斐南子	奥 律子
入 選	園田 浩志	國見 純子
入 選	山内 聡史	上久木田真由美
入 選	森岡 葉月	菊浦 美和子
入 選	坂元 優花	関 光子
入 選	高田 麻美	伊地知 香織
入 選	有村 凌華	関上 千佳子
入 選	日高 嘉子	上川 礼子
入 選	坂中 春月	廣瀬 衛子
入 選	南 七瑠	吉野中学校保護者
10周年記念特別賞 (個人の部)	田澤 夏美	福田 裕美
10周年記念特別賞 (団体の部)		坂元中学校

※ 本人の了解が得られた方のみ、氏名を掲載しています。

# 「こころの言の葉」コンクール 歴代大賞受賞者及び作品集タイトル

10年間応募総数 108,662 点

年	歴代大賞受賞者		作品集タイトル
	中学生の部	親の部	
平成15年	徳田 侑子	新屋敷 ひとみ	本当に大切なあなたへ…
平成16年	嶋崎 衣利子	丸山 裕子	あなたに届けたい
平成17年	前田 亜貴	吉見 孝子	伝え合う思い
平成18年	日高 史博	福田 裕美	命のかがやき
平成19年	樋之口 俊一	馬場口 麻里子	優しさをあなたに
平成20年	田澤 夏美	平山 由美	伝えたい思い
平成21年	末廣 伶	平澤 智子	あふれ出る思い
平成22年	落合 祐美子	神川 葉子	届け、この思い
平成23年	木田 夕菜	國見 純子	家族の絆
平成24年	中間 蒼	河野 理奈	つながる心

# 「こころの言の葉」コンクール 10周年記念ポスター原画コンクール入賞者及び作品



最優秀賞「あたたかな冬の夜」  
谷山中2年 春口 花菜



優秀賞  
坂元中2年 堀之内友郁



優秀賞  
谷山中2年 元吉梨奈子



優秀賞  
谷山中2年 安井 千鶴

The 10TH ANNIVERSARY

## こころの言の葉

～ 10周年。まだ、幼かった頃からの特別な想いを。今年、言葉にのせて～

## 審査員講評

### 審査委員長

千々岩 弘一 先生

坂尾 加代子 先生

前田 昭人 先生

平成一五年度から始まった本コンクールは、一〇年目を迎えることができた。本年度の一六、一一四名を含め、この間に、一〇八、六六二名の皆様に御応募いただいた。感慨無量の数である。加えて、この度の一〇周年記念大賞を受賞された方が、社会人として生き生きと活躍なさっていらっしゃる御様子を御覧につけても、本コンクルールの社会的意義の高さを実感する。これも、偏に、当事者である中学生とその保護者の積極的な御参加と中学校・教育委員会をはじめとする関係各位及び鹿児島市民の御支援の賜物である。心から感謝申し上げたい。

今、日本は、東日本大震災の傷も癒えないまま、様々な分野やレベルで厳しく辛い状況に置かれている。その意味では、これからの時代を生きる中学生たちを待ち受けている状況は、決して楽観視できない。しかし、一方で、iPS細胞の開発でノーベル医学生理学賞を受賞された山中伸弥京都大学教授のように、様々な分野で世の中に希望を与える活躍をなさる方々もいらっしゃる。これらの方々の存在は、未来を生きる中学生に勇気を与えるに違いない。そして、何よりも、彼らに身近な「頑張ってる生きる父や母の姿」やそのときに抱いた「感謝の気持ちや幸せの実感」は、これからの時代を生き抜く原体験になると信じたい。

本コンクルールの次の一〇年は、その時々の中学生や保護者の「心の交流」だけでなく、次々と巣立っていく若者たちが築く新しい鹿児島・日本の未来に貢献するものとして存在してほしいと願っている。

鹿児島国際大学教授

「反抗ばかりでごめんなさい」「どう考えても私が悪いのに……」。日頃の反抗的な態度をわびながら、親への感謝の気持ちを綴った子どもたちの「こころの言の葉」。一人ひとりが、それぞれの環境の中で葛藤する気持ちを整理しながら文字に託していくうちに、親の存在の大きさに気づき、子どもたちの心のやさしさ、素直さがあふれてきたのだと思います。

今回、印象に残ったのは、家族をとっても大切に思っている子どもたちの「言の葉」です。子どもたちにとって家族は、最も信頼し安心できる「心の居場所」であると改めて感じました。しかし、悩みや不安などを抱えたまま「心の居場所」を、まだ見つけ出せない子どもたちも少なくありません。揺れ動く思春期の子どもの心は、いつでも心を開いて話し合える場を、常に親は準備して欲しいと思います。

親からの「言の葉」には、命の大切さ、尊さを紙面一杯に綴り、懸命に我が子に伝えるものや、「子どもが存在そのものが生きる力になっていく」という一文を記したためたものがあり、親としての原点を見た思いがしました。また、親の笑顔は子どもの『心の安定剤』となり、子どもの笑顔は親の『元気の源』となっていることも大切な気づきでした。

今まで、数えきれないほどの子どもたちや保護者の方々と「心を共有できたこと」は、私のかげがえのない心の財産となりました。「こころの言の葉」が親と子どもとの心を繋ぐ架け橋となるよう願っています。

市「さつまっ子」育成市民会議副委員長

親子や夫婦、あるいはきょうだいの間でのいさかいや事件。最も心安らぐはずの家庭が犯罪の現場になるケースが後を絶たない。なぜなのか。ケイタイやメール、ツイッターにフェイスブックと、人と人がつながる機器はどんどん開発されるのに離れるばかりに見える家族の心。いったいどうなっているのかという思いで「言の葉」を読んだ。

少ない字数で家庭内や学校のことなどをつづり、文章の稚拙もあつたけれど、読後はホッとした。わずか三五〇字ほど原稿の背後にその何倍もの思いを感じたからだ。思う、話す、書くのなかで書くは最も面倒な行為だが、やはり苦労した分はある。何より、どんなに腹が立っても文章にする間は救われる。

ただ、「ありがとう」や「ごめんなさい」がやたら多い作品は、生徒でも保護者でも少々閉口した。ありがたいことやごめんなさいの中身をきちんと書いて、二つの言葉は効果的に使いたい。

思春期に反抗期が重なり、気難しい中学生という季節。行き詰まったらインターネットなどを離れ、活字の世界に浸ってみるのもいい。そこでは文章の達人が異なるものの考え方や見方を教えてくれるだろう。

そしてアジアやアフリカなど発展途上国のことも学んでみよう。親子や夫婦、きょうだいがまだふつうに支え合う姿が見えるかもしれない。

南日本新聞社編集委員



## 編集後記

関係の皆様のお力により、「このころの言葉」コンクール作品集第十集が完成しました。過去最高の応募数は、各中学校での取組の成果と感謝申し上げます。

今年度は、十周年記念としてポスター原画コンクールを実施してポスターを作成しました。また、市PTA連合会との連携を図り、課題であった親の部の応募作品の増加に力を入れました。その甲斐あって、特に親の部の応募が七年ぶりに千点を超え、過去最高の千百三十二点もの応募がありました。

また、十周年記念特別賞を特設し、個人、団体をそれぞれ表彰しました。

個人では、この十年間の大賞受賞作品から最も感銘を受けた作品として中学生の部、親の部から一人ずつ表彰しました。授賞式のインタビューで、「このころの言葉」をきっかけとした親子の心の交流が語られ、本事業の趣旨が時を経て生かされていることを実感することができました。

団体では坂元中学校が受賞。この十年間で最も多くの優秀作品を出したことが評価されました。その受賞の裏には、学校として継続した取組により、作品集に掲載されないものの、目に見えない数多くの親子の交流を生んできたことを想像させてくれます。

これらは、「このころの言葉」コンクルールの広がりや深まりを表すものといえます。本事業を更によいものにするために、皆様の御意見・御感想をお聞かせください。

来年度は、事業開始から十一年目に入ります。事務局では、これまでの、成果を生かして、ますます親子の心の交流が図られるよう取り組んでいきたいと思っております。事業の趣旨を理解していただき、さらに多くの応募をお待ちしております。

## 坂口 洋文 先生

中学生時代において、「家族のこのころの交流」は極めて困難でありながらも、人生の土台を築く時期における極めて大切な課題です。過去最高の応募数になった今回のコンクールは、中学生や保護者、教育関係者等の「家族のこのころの交流」が大切だったという意識の高さによるものと、心から喜ばしく思います。

作品の審査をしながら、思わず口元がゆるんだり、目頭が熱くなったり、重苦しい気分になったりと、私の感情は様々に揺さぶられました。それぞれの作品に、それぞれの親子・家族の思いが鮮やかに描かれており深い感動を覚えました。私には、「そうだなあ。」と感銘を受ける作品ばかりでした。

それぞれの家族に、様々な親子の問題が生じます。親子が激しく衝突し、壁を隔てて言葉もかけられずに立ちすくむ母親。言葉にすれば全て対立となる親子。何とか心を通わせようともがいている姿が見えてきます。

言葉の無力さを感じることもあるでしょう。しかし、言葉には言葉が宿っているとも言われます。言葉にできないほどの思いも、じつと相手のことを思うと、「このころの言葉」として伝わります。作品のそれぞれには、多様な「このころの言葉」によって、このころを通わせようとする温かさが満ちています。

さまざまな形で、温かい「このころの言葉」がどの家庭にもあふれるよう願っています。

元中学校校長

## 新原 市郎 先生

十周年の記念となるこのコンクールに、審査員として携わることができ、過去最多の一万四千点を超える応募に大変うれしく思います。

私自身、初めての審査に関わり、胸を熱くさせられ、心の琴線に触れながらの選考になりました。普段の生活の中では、面と向かっては言えないことだからこそ、重みもあり、心に響くそれぞれの言葉は、どれもが賞に値するもので、審査も困難を極めました。

携帯電話やスマートフォン等の普及により、友人関係だけでなく、親子関係にも昔と違い変化が起きてきていると非常に感じる中、自分の思いをメールではなく、文字を書くことで温かく素直な思いを表すことができるところではないか。だからこそ、その思いが、相手に伝わり感動となる。審査をする中で、それぞれの情景が思い浮かべられました。

社会構造がデジタル化され、様々な情報が一瞬にして得られる中でも、親子関係はアナログ的な関係も良いのではないのでしょうか。

この「このころの言葉」を読まれて、いろいろな思いをもたれたと思います。親と子のそれぞれの立場で、今夜ゆつくりと語り合っただけでどうでしょう。この作品集が、皆さんの心に潤いを与えてくれることを願い、来年もこの感動と出合えることに期待します。

市PTA連合会会長

《10周年記念特別号》

# こころの言の葉

～第10集 つながる心～

平成24年12月20日

発行 鹿児島市教育委員会  
〒892-0816 鹿児島市山下町6-1  
TEL (099)227-1941 FAX (099)227-1923